

津島市のコミュニティ・スクール課題チェックリスト

評価者（ 学校 ・ 保護者 ・ 地域 ・ 行政 ）

	コミュニティ・スクール課題	評価	できていない場合の対策として	めざす方向
1	あなたの学校のCSは、「学校支援」に留まっていませんか		協議題に「学校課題・地域課題」の両方が入っていないため、教育目標や学校経営案に地域の願い(地域の目指す子ども像)を入れ、その実現のための活動として、両方の課題解決に繋がる協働活動を進める必要があります。	CSが5年目を過ぎたら、スクールコミュニティ(学校を核にした地域づくり)を目指しましょう。
2	学校は「地域から十分意見をもらっている」雰囲気がありますか		学校の本音の悩みや課題が、地域と共有できていないため、学校の困り感に対してCS委員も当事者意識をもって考える姿勢が必要。教員・児童生徒と熟議をすることが効果が大きい。	熟議の実施と、その話し合いの活かし方を年間計画を立てて、推進しましょう。
3	学校は「常に地域と目標を共有して」取組を考え、行われていますか		次年度の活動を検討する前に、目指すべき目標に対する達成度を学校と地域が共有しなければ、活動ありきの活動になり、年度ごとの成果が積み上げられません。	年度末には目標に対する達成度などの評価を実施しましょう。(CSポートフォリオが文科省HPにあり活用できます)
4	様々な「学校課題」「地域課題」がCSの協議題として挙がっていますか		CSの目的は、「地域とともにある学校づくり・学校を核にした地域づくり」にあるので、CS会議に向けて、事前に会長・校長などのCS役員間で会議題や協議内容の擦り合わせを行うことが重要です。	学校だけが助かる姿勢ではありませんか。協働活動年数が長くなってくると、地域側のメリットも考えなくては、活動が続きません。
5	あなたの学校のCS・協働活動は、人が入れ替わっても「持続可能な仕組み」ですか		CS委員の核になる人選(会長・副会長・推進員等)の方法について、委員の納得の上で決められていることが重要です。現役PTA役員ともCSの目的が共有され、地域の次世代育成の理解を得ていることも大切です。	小中学校でCS委員等の取り合いにならないように、小中が連携して地域の次世代人材育成を進めましょう。
6	あなたの学校のCS・協働活動により、人々の「当事者意識」は高まっていますか		活動が活発にならない、ボランティアが集まらないのは、地域の多くの人にCSの正しい理解が進んでいないことがあります。また、当事者意識を高める方法は、まず子どもたちや教員と熟議を通して、それぞれの本音を相互につかむと、当事者意識が高まります。	熟議をすると、1～9の課題解決にもつながっていきます。 <b>「熟議」の実施が課題解決には最も有効です。</b>
7	何か問題が発生した時、保護者や地域住民が「学校の味方、代弁者」となってくれる雰囲気ですか		地域が、学校の味方・代弁者であるためには、学校の困り感は他人事ではないという意識になってもらうことが大切です。そのため、日頃からPTAや地域住民と、良いこと悪いこと(謙虚さ)の気軽な情報交換ができていて、信頼が大きくなると思われれます。	CSは学校の理事側の立場で、責任を共にするパートナーです。学校と地域の対等な関係性になるように対応することが大切です。(貸し借りの関係ではX)(やってあげてる感もX)
8	何のためにCSを行っているのか、関係者間(学校・保護者・生徒・地域・行政)で理解されていますか		CSの目的の擦り合わせは、関係者が入れ替わった度に、確認する地道な配慮が必要です。そのため、毎年度、熟議で活動の評価反省検討を行い、目的・目標を共有する中で関係者間の意思疎通を図りましょう。	活動のメリット(子どもや保護者や先生の声)をもっと発信して、CSの存在価値を地域に伝えましょう。<SNS・便り・写真等> <b>CSの会議内容の発信は努力義務です。</b>
9	教職員は自分の学校のCSについて正しく理解していますか		管理職だけがCSを理解して、一般の教職員の理解が進んでいない場合、地域側の先生を見る眼には、厳しいものがあります。カリキュラム上での地域からの授業支援があると、一般の先生も地域の力のありがたさを実感できます。授業が「授業支援から協働授業」に進むと、双方の理解が早く進み、CSが目指す姿に進みます。	「社会に開かれた教育課程」のめざす内容には、このCSを生かした授業改革にあります。地域とともに子どもたちを育て、地域住民との意見交流が、さらに学校のパートナーを増やすことになります。
10	子どもたちの生き生き活動する姿が、市内の人々に日常的に認知されていますか		活動が活発にならない、ボランティアが集まらない、正しい理解がされていないのは、すべて情報発信・情報共有の方法や回数に問題があります。地域での子どもたちの活動は、多くの市民の目に触れる広告塔になりますし、楽しく無理なく気軽に参加し、続けられる活動が人を呼び寄せることに繋がります。人が参加したくなる活動を熟議しましょう。	超少子高齢化でますます地域と子どもたちが関わる場面が少なくなっています。「子どもたちから元気をもらった」との地域からの言葉が、学校が好印象になり、支援が増える出発点です。子どもが参画すると自己肯定感が増します
合計得点の平均 →			←各項目は、5, 4, 3, 2, 1点で評価する	